

## はじめに

富山大学ヘルン（小泉八雲）研究会の活動も3年目を迎え、これまでの成果を踏まえて各自の研究をさらに推し進めるほか、さまざまなラフカディオ・ハーン関連研究者をお招きして、講演会やシンポジウムも開催してまいりました。今年度の主な活動は以下の通りです。

### I. 2017年度富山大学ラフカディオ・ハーン研究国際シンポジウム

2017年12月23日（土）・24日（日）富山大学人文学部第6講義室

【1日目】日本におけるラフカディオ・ハーン

戦後高等学校国語教科書の中の小泉八雲・序説 西田谷洋（富山大学）

文学教育の題材としての小泉八雲—富山大学の近年の実践例をもとに—

小谷瑛輔（富山大学）

【基調講演Ⅰ】ハーンの『心』と漱石の『心』—日清戦争認識をめぐって—

小森陽一（東京大学）

ラフカディオ・ハーン「守られた約束」について—原話と再話の比較から見えるもの—

川澄亜岐子（東京大学大学院生）

帝大講師小泉八雲—講義「読書論」「創作論」「文学と輿論」を中心に

服部徹也（慶應義塾大学大学院生）

ハーンと日本人の表情

水須詩織（富山県美術館）

ハーンと大正日本の想像力—佐藤春夫を中心に—

河野龍也（実践女子大学）

【2日目】ラフカディオ・ハーン研究の今

ラフカディオ・ハーンの創作と文化的記憶—「和解」を中心に 結城史郎（富山大学）

ハーンはアメリカでどう読まれたか—『日本—一つの解明』を中心に

水野真理子（富山大学）

【基調講演Ⅱ】文化資源としての作家と文学—ラフカディオ・ハーンの可能性—

小泉凡（島根県立大学）

Some more Lafcadio Hearn Materials from the University of Virginia

WILLIAMSON, Rodger Steele (The University of Kitakyushu)

ハーン作品のドイツ語版とユダヤ系文化人たち 岩本真理子（北九州市立大学）

ヘルン文庫書き込み調査報告—『ギリシア詞華集』と『ルバイヤート』をつなぐもの—

中島淑恵（富山大学）

## II. 国際シンポジウム日本文学とヨーロッパ文学の交感

2018年2月9日(金) 13:00～17:30 富山大学人文学部3階第6講義室

【基調講演】メリメを読む漱石 ―幻想の語り方をめぐって―

柏木隆雄(大阪大学名誉教授)

小泉八雲の『心』から夏目漱石の『心』へ ―ダミアン・フラナガン(小説家、評論家)  
文学のジャンルとしての近代断片から芥川の随筆を読み直す試み：侏儒の言葉の例

マリー・ノエル ポーヴィウー(立命館大学嘱託講師)

流血の惨事―「幽霊滝の伝説」と「耳なし芳一」から― 中島淑恵(富山大学教授)

今年は2回の国際シンポジウムを開催することができ、とりわけロジャー・ウィリアムソン氏には、ヴァージニア州立大学に収められたハーン関連資料について、詳細な報告をいただきました。また、ダミアン・フラナガン氏には、これまであまり言及されてこなかった、漱石を中心とした文学上の三角関係としての夏目漱石と正岡子規という視座の導入によって、独創的な漱石論をご披露していただきました。

また、12月のシンポジウムでは、満を持して小泉凡先生のご登壇いただいたほか、夏目漱石研究の泰斗であらせられる小森陽一先生にもご講演いただき、富山の聴衆に耳福のひと時を提供することができたのではないかと自負しております。また、2月のシンポジウムでは、ぜひ一度ご来富頂き、知見をご披露いただきたいと願っていた柏木隆雄先生にご講演いただく機会を設けることもできました。各国文学の枠組みを超えて文学研究者が研鑽しあい、新たな研究の糧とする機会が得られたのではないかと自負しております。また、外国人による日本文学研究の水準の高さにも瞠目させられるよい契機となりました。私どもの研究が世界を目指すのと同様、ハーン研究を通して得られる視野は、畢竟世界的なものとならざるを得ません。今年度はこのほか、日本比較文学会や日本フランス語フランス文学会秋季大会でも研究会のメンバーがハーン関連のワークショップを行ったり、また、日本ケルト学会では同じくハーン関連の発表を行ったりという対外的な活動も勢力的に行ってまいりました。

本論集は、これら今年度の活動のうち、12月の国際シンポジウムの成果を中心にまとめたものです。恒常的かつ安定的な予算措置が望めない中、本年度も学長裁量経費の配分を受け、また科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究 16K13215)の交付も受けることができましたこと、関係者各位に厚く御礼申し上げます。また、富山大学人文学部および富山大学附属図書館からも物心両面で多大なるご協力を賜りましたことも申し添えておきます。今後も着実に結果を積み重ね、皆様にその成果を公表する努力を続けて参りたいと思います。

2018年3月

富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会メンバー一同